

標 題 : Diet and Alzheimer's disease  
食事とアルツハイマー病

---

著 者 : J. A. Luchsinger, et al. (米国 コロンビア大学 アルツハイマー病および  
加齢脳研究の Taub 研究所)

---

掲 載 誌 : Curr. Neurol. Neurosci. Rep. 7: 366-372 (2007)

---

要 旨 :

アルツハイマー病(AD)は有病率が増加している。

既知の予防または治療の手段はない。

酸化ストレス、ホモシステイン関連ビタミン、脂肪、およびアルコールが、アルツハイマー病の病因で役割を有するとの証拠がある。

抗酸化物、ビタミン B6、B12 と葉酸、不飽和脂肪酸、および魚の高い食事摂取はアルツハイマー病の低いリスクと関連すると、一部の疫学研究が示唆するが、報告は一致していない。

少量から中程度のアルコール摂取、特にワインは、アルツハイマー病の低いリスクと関連する可能性がある。

地中海食事も、低いアルツハイマー病リスクと関連する可能性がある。

しかし、ビタミン E、B12、B6 および葉酸のサプリメントでのランダム化臨床試験は認知の効能を示してなく、そしてアルツハイマー病に関する他の栄養素または食事のランダム化試験は入手できない。

アルツハイマー病の予防のために特定なサプリメント、食品、または食事を推奨することを、現存の証拠は裏付けていない。

---